よろこびがつなぐ世界へ
KIRIN

News Release

2026 年 11 月 11 日

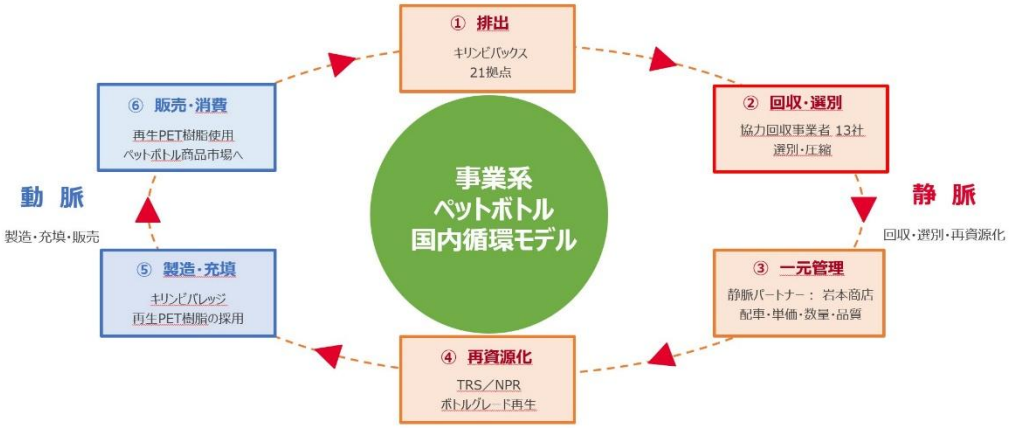
事業系ペットボトルの国内循環モデルを構築
動静脈連携により、中国・四国・九州 8 県 21 拠点で「ボトル to ボトル」の取り組みを開始

キリンビバレッジ株式会社（社長　井上一弘、以下キリンビバレッジ）は、グループ会社である株式会社キリンビバックス（社長　芳野博郎、以下キリンビバックス）から排出される事業系ペットボトルの国内循環に向けた取り組みを、10 月より開始しました。

本取り組みでは、再生 PET 利用を推進する動脈側であるキリンビバックスと、回収・選別・再資源化を担う静脈側である株式会社岩本商店（社長　岩本真継、以下岩本商店）、株式会社エフピコ（会長　佐藤守正）のグループ会社である西日本ペットボトルリサイクル株式会社（社長　千々木亨、以下 NPR）、豊通ペットリサイクルシステムズ株式会社（社長　金沢良親、以下 TRS）が連携し、中国・四国・九州の 8 県 21 拠点を対象に、回収から再資源化までを一元管理する事業系ペットボトルの国内循環モデルを構築しました。

キリングループは、「キリングループ環境ビジョン 2050」のもと、「容器包装を持続可能に循環している社会」の実現を目指しています。一方、事業所などから排出される事業系ペットボトルは、回収後の行き先や最終用途を把握することが難しく、排出された資源をペットボトルをはじめとする食品包装容器等へ確実に国内循環させるためには、回収から再資源化までを一貫して管理できる仕組みづくりが課題となっていました。

本モデルでは、中国・四国・九州の 8 県 21 拠点から排出される事業系ペットボトルについて、協力回収事業者 13 社による回収・選別の後、再資源化事業者である TRS および NPR へ接続し、再生 PET 樹脂として再資源化します。その再生 PET 樹脂を活用したペットボトルをキリンビバレッジが使用することで、ペットボトルを再びペットボトルへ再生する「ボトル to ボトル」水平リサイクルの循環を国内で推進します。
本取り組みは、再生 PET 利用を推進する動脈側の発意と、回収・選別・再資源化を担う静脈側の知見や現場力を組み合わせることで実現しました。
キリンビバレッジおよびキリンビバックスが排出者として国内資源循環の方針を示し、岩本商店を中心とする静脈パートナーが回収事業者や再資源化事業者との連携、数量管理、品質管理などを担うことで、事業系ペットボトルのトレーサビリティ確保と安定した資源循環を可能にしています。



【事業系ペットボトル国内循環モデルイメージ】

キリンビバレッジは、本取り組みを通じて得られる知見や実績を活用しながら、事業系ペットボトルの資源循環拡大に取り組みます。今後も動静脈連携による資源循環モデルの検証を進め、持続可能な容器包装の実現とサーキュラーエコノミーの推進を目指します。

キリングループは、「キリングループ　プラスチックポリシー」において、2027 年までに日本国内における PET 樹脂使用量の 50%をリサイクル樹脂とすることを目標に掲げています。本取り組みは、その実現に向けた取り組みの一環です。
キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。

（お客様お問い合わせ先）
キリンホールディングス株式会社　キリンビバレッジお客様相談室　（フリーダイヤル）0120－595955
企業情報 Web サイト　https://www.kirinholdings.com/　商品・サービス情報 Web サイト　https://www.kirin.co.jp/